

税金に助けられた人たち

豊岡中学校 三年 市川 歩花

私たちは普段、あまり意識することのない税金。しかし、税金は生活する上で欠かせないものである。

私は、今年の十月に消費税が八パーセントから十パーセントに上がることに對して、反対の意見を持った。なぜならば、「たった二パーセントで社会の何が変わるのだろうか」と思っていたからだ。

しかし、この税金によってたくさんの方が助けられていることを知り、私の気持ちは大きく動いた。それは、被災者への支援である。私の地域では、幸いにも大きな災害は起こっていないが、テレビをつける度々辛いニュースが目に入ってくる。人が瓦礫の下に埋まっている、家が川の洪水の被害に遭いもう家に帰れないなど・・・私は、そのニュースを見てとても苦しくなった。それと同時に何か私にも出来ることがしたいと強く思った。災害が起こった時に一番に助けに来てくれるのは自衛隊の人、被災者のために泥だらけになりながらも必死に救助したり、寄り添う姿がスーパーヒーローのように思えた。しかし、私には何もすることが出来ない。そう思った時、ヒーローたちは税金によって成り立っていることを知り、とても嬉しくなった。私も少しだけだけでも、貢献出来た・・・この気持ちは、忘れ難い経験となった。

少しのように感じた二パーセント、見方によってはとても大切な

ものとも捉えられる。実際、私もこの税によって教育の環境が整っていたり、医療機関もいつでも受診することが出来る。それは、当たり前のことではなく、とてもありがたいことであると思った。

今まで払う意味も知らずにただただ税金を払い続けてきた。しかし、税金の使い道や役割を知ることによって、同じ払うということでも、大きく意味が変わる。中学生では、まだ消費税しか払わないが、私はそれを気持ちよく払えるようになった。今回、この作文を書くにあたってわかった、税金の使われ方以外にもたくさん人のために使われている。税金によって社会が成り立っている。あまり、意識はしていなかったが、それはとても大切なものだと思った。これからは、税についてより深く理解をし、税金を気持ちよく払うことの出来る大人になりたいと思う。